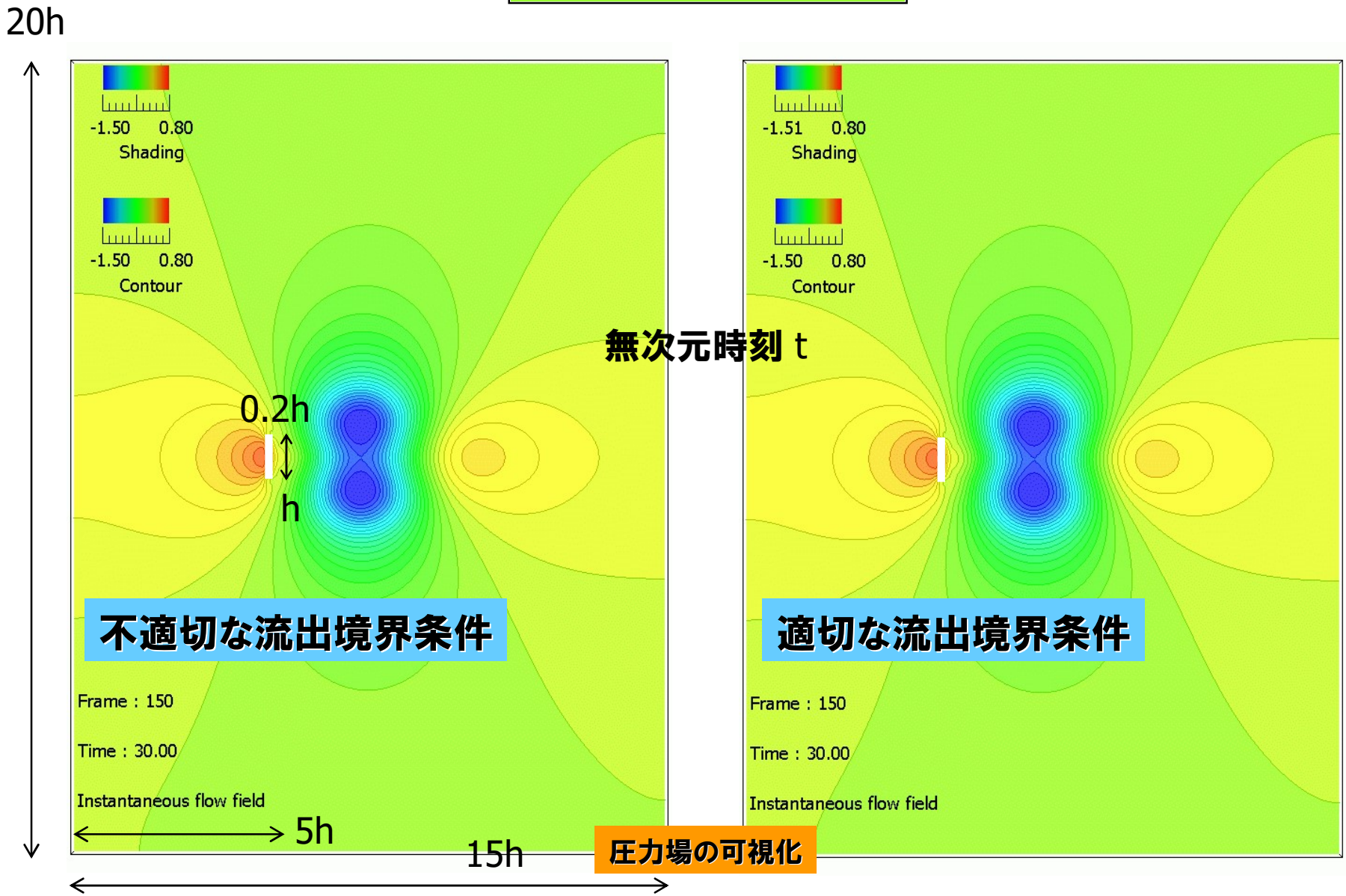
2016年6月8日

流出境界条件の重要性

内田　孝紀
takanori@riam.kyushu-u.ac.jp

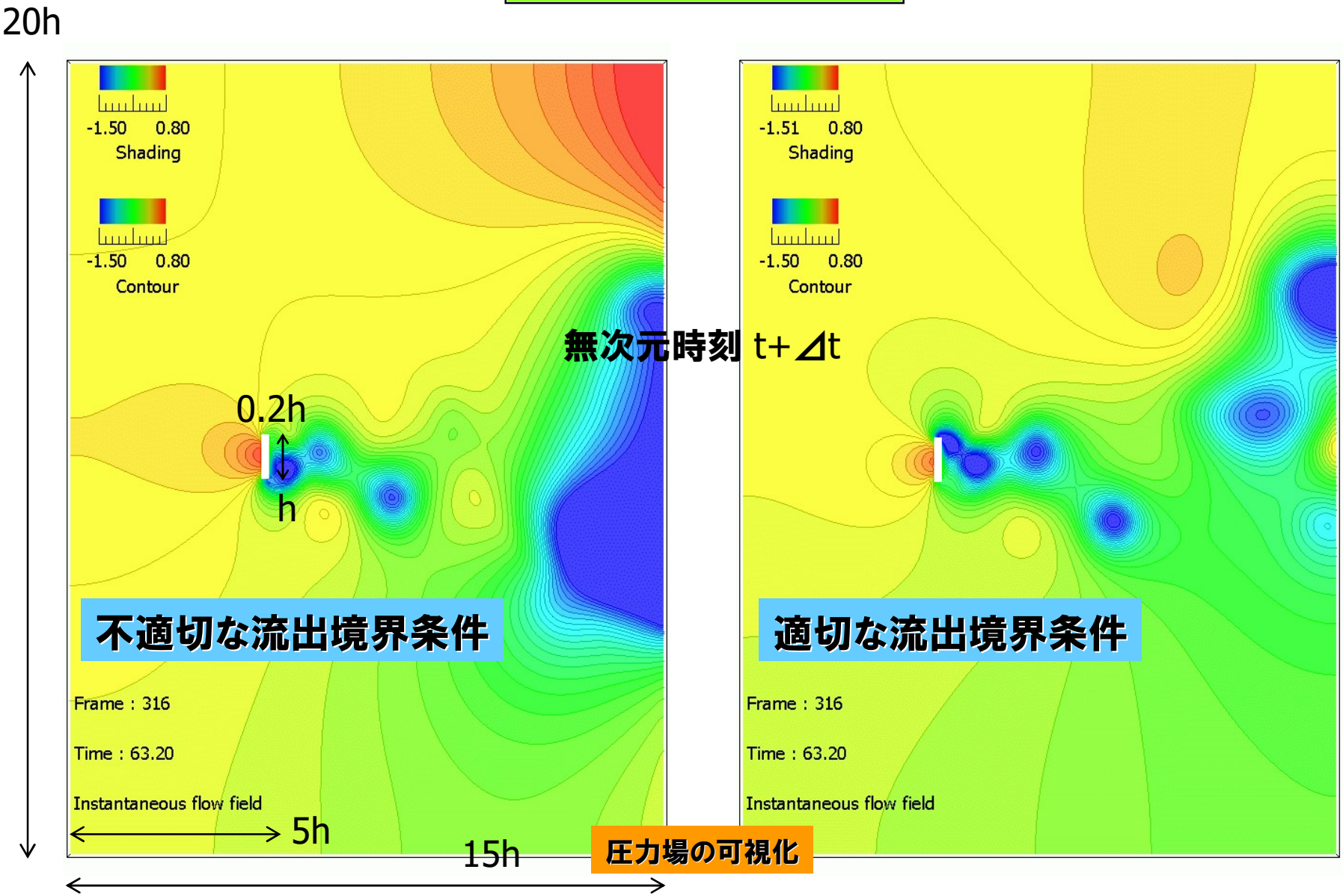
RIAM COMPACT　APPLIED MECHANICS　九州大学

計算結果①



「差分法における幾つかの知見」, 内田孝紀, 大屋裕二, 九州大学応用力学研究所所報, 第84号, pp.29-43, 1998 より引用

計算結果②

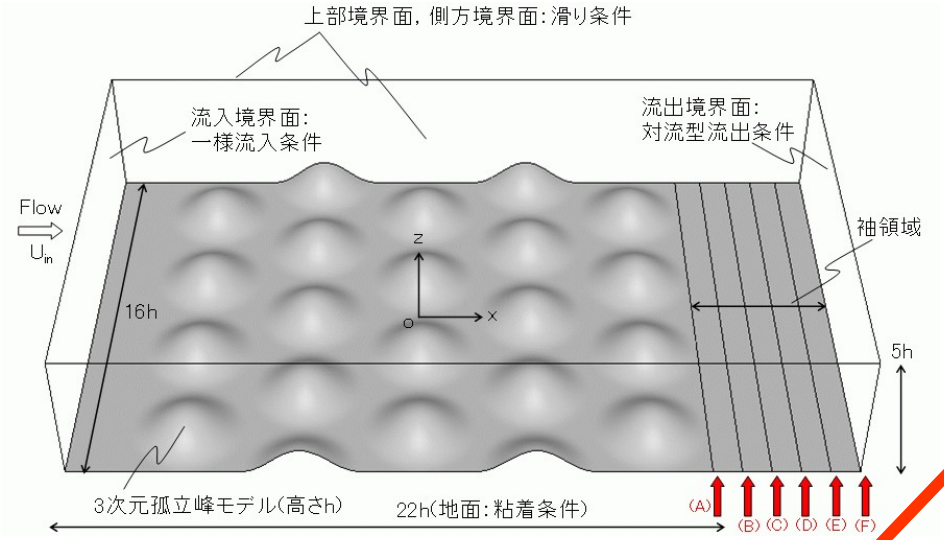


圧力場の可視化

「差分法における幾つかの知見」, 内田孝紀, 大屋裕二, 九州大学応用力学研究所所報, 第84号, pp.29-43, 1998 より引用

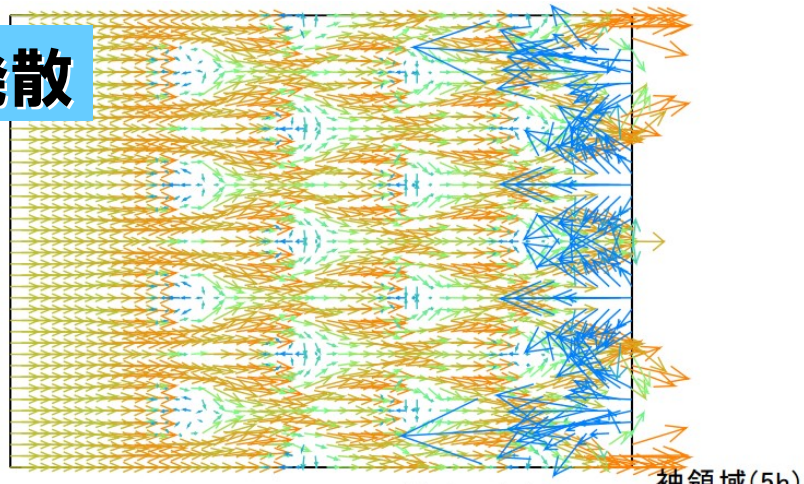
計算結果③

解析事例



	追加した袖領域	主流方向全体の長さ	メッシュ数
Case1 Fig.1(A)	0h	22h	111×81×41
Case2 Fig.1(B)	1h	23h	116×81×41
Case3 Fig.1(C)	2h	24h	121×81×41
Case4 Fig.1(D)	3h	25h	126×81×41
Case5 Fig.1(E)	4h	26h	131×81×41
Case6 Fig.1(F)	5h	27h	136×81×41

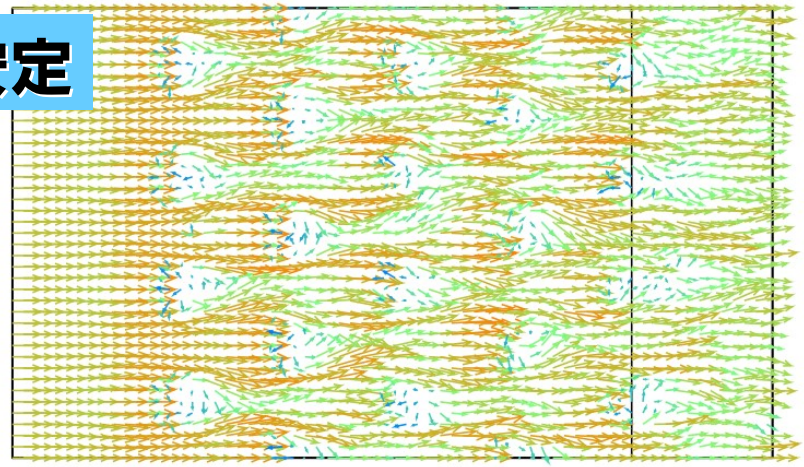
発散



(a)Case1，袖領域無し

袖領域(5h)

安定



(b)Case6，5hの袖領域有り

Fig.3 Comparison of velocity vector at z*=0.5h

「複雑地形上の非定常風況シミュレーションにおける流出境界断面の取扱いについて」
内田孝紀，大屋裕二，九州大学応用力学研究所所報，第129号，129-133，2005 より引用